

今月のキーワード解説

就職内定率

今月号の「公表された主な労働関係統計」にも取り上げられている「就職率」ですが、この就職（内定）率についての調査にはどのようなものがあるのでしょうか。

大学等については、文部科学省・厚生労働省が行っている「大学等卒業予定者の就職状況調査」（以下、「大学等就職状況調査」とします）があります。大学等就職状況調査は、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校卒業予定者の就職状況を把握し、就職問題に適切に対処するための参考資料を得ることを目的としています。平成8年度（1996年度）から行われており、毎年、10月1日、12月1日、2月1日、4月1日の年4回、調査がなされています。

大学等就職状況調査の場合の就職内定率は、就職希望者に対する調査時点での内定者の割合となっています。

高等学校等については、主な調査が2つあります。1つは、文部科学省「高等学校卒業者の就職状況に関する調査」（以下、「高校就職状況調査」とします）です。高校就職状況調査は、新規高等学校卒業生で就職を希望した者の就職状況をまとめたもので、平成元年度（1989年度）から行われており、毎年、10月末、12月末、3月末の年3回調べられています。高校就職状況調査の場合の就職率（10月末、12月末の場合は就職内定率）は、就職希望者に対する就職者（10月末、12月末の場合は就職内定者）の割合となっています。

もう1つは、厚生労働省が行っている「高校・中学新卒者の求人・求職・就職内定等状況」（以下、「高校中学就職状況」とします）です。高校中学就職状況は、昭和52年（1977年）から調べられており、学校またはハローワークの紹介により就職を希望する高校新卒者及び中学新卒者を対象としています。毎年、9月末、11月末、1月末、3月末の年4回調べられています。

高校中学就職状況の場合の就職内定率は、学校またはハローワークの紹介を希望する者に対する、学校またはハローワークの紹介によって内定した者の割合となっています。

調べる内容は、高校就職状況調査が「就職者の割合」、高校中学就職状況が「内定した者の割合」となっていますが、意味に大きな違いはありません。結果も似たような傾向になっています。ただ、高校就職状況調査は、学校またはハローワークを通して求職している者のみでなく、就職を希望する者全員を対象としており、調査範囲が広く、また、学科ごとの就職状況が把握できる調査となっております。これに対し、高校中学就職状況は、調査の範囲が「学校またはハローワークを通して求職している者」と限定されますが、2カ月おきに4回定期的に調べられており、半年の状況が追跡でき、また、中卒の状況も分かります。

なお、以上に紹介した調査のほか、最終的な就職状況については、文部科学省「学校基本調査」により詳しい内容を知ることができます。

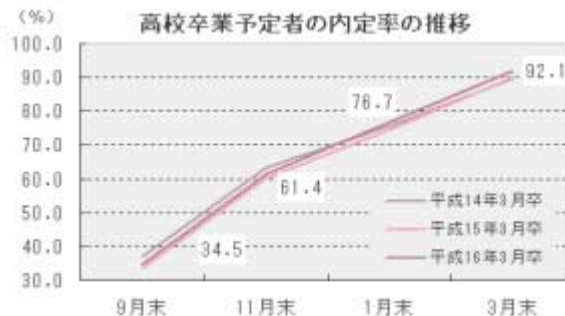
さて、大学等就職状況調査では、対象学生全体の中から、何人か選んで調べる、抽出調査という方法が用いられています。調査結果を単純に集計しただけでは、対象の一部の結果に過ぎず、対象全体の値を求めるには、推計することになるのですが、その場合、結果において、抽出に伴う誤差が生じます。

一方、高校就職状況調査は、就職を希望する新規高等学校卒業生全員を対象とし、対象すべてを調査する悉皆（しっかい）調査であり、標本調査ではないため、標本抽出に伴って発生する誤差は、ありません。高校中学就職状況は、業務統計から求められるものであり、高校就職状況調査と同様、標本調査ではないため、標本抽出に伴って発生する誤差は、ありません。

標本抽出に関する誤差については、詳しくは、次号にて、紹介したいと思います。



資料出所 文部科学省・厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」



資料出所 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・就職内定等状況」

（情報解析課長 秋山恵一）